

日本は、3人に1人が65歳以上と超高齢社会にある。高齢者とはいっても趣味や生活は一樣ではないのだから、何もひとくくりにして考えずに他の世代同様に考えれば良いとはよく言われてきた話である。しかし、そろそろこの認識も切り替える段階に来ている。日々、高齢者は

年を取っていき。そして若者層や中年層者にとつては当たり前前にできることが、そう簡単ではないことにな

超高齢社会での対応を再考

まず年齢が進むと視力に自信が持てない人が増える。昼間は大丈夫だけれども夜になると外出自体に不安を感じるほど見えづらくなるという人もいる。50歳の缶を素手では開けられな

ったり、寒色系の色彩などの特定色が見づらく感じたりして、スーパーや店舗におけるゾーニングや陳列にも違和感を覚え出したり、

浦部 雅充 (うらべまさみつ) コンサルティング事業本部経営コンサルティング第2部 シニアマネージャー



きる。しかし店前にただ清涼飲料水の自販機を置いていればニーズを満たしているとしている店舗はいまだに多い。

ライターもチャイルドレジスタンス機能付きのタイプは押しボタンが固く、高齢者では、まるで歯が立たないはずだ。実際には条件次第で簡単に押せるタイプ

ライターの人もチャイルドレジスタンス機能付きのタイプは押しボタンが固く、高齢者では、まるで歯が立たないはずだ。実際には条件次第で簡単に押せるタイプ

集客ビジネスの新潮流(2)

以上の実に半数近い人が自分の目の衰えに不安を感じるといふ話もあるくらいだ。色が薄く明暗差がなか

くなる人が多

なことはないだろうと、想像すらにくいことが上手

も発売されているようだが、少なくとも身近なコンビニやスーパーではあまり見かけない。

このような便利な道具があることを知らないのなら、今は高齢者でもスマー

(毎週木曜日に掲載)

